

風の流氷

◆ 一般投稿作品 ◆

岡崎桜雲 選

立ち登る霞消えつつ山目醒む
朝歩きホケキヨ何度も聞けるとは
陽とともに蜜蜂働く日曜日
薫風ややなせたかしの生誕地
カラタチや新芽かわゆく雨ころぶ
桜散る七つボタンの知覧の空
鶯ときそつて楽し笛を吹く
体操の窓を揺るがす虎落笛
古里やごくんごくと寒の水
花柚子の香のなつかしや塩の道
コロナ禍の胃や誰も彼も病み
梅雨の雲人を感じをりにけり
午よりは風となりけり山桜
いとし子に先だたれ春雨はげし
蕨摘み初物ばかりの一人飯
縫ひ上げし姉様人形花の昼
七福神淡路の春をひと巡り
寄り添ひて里山暮し花通草
田を植えて香長平野は一色に
反り合はぬ飼猫二匹日向ぼこ
海鳥は黄砂に滲む海に溶け

前田 裕子
畠山 千江
原 茂
山崎 貴子
西野地 薫
岡本 初美
五百蔵利美
伊藤 清子
山崎 寿美
中村 紫乃
三谷 誠郎
山崎 雅也
明石 菲生
荒木 景子
楮佐古きよ
佐竹 洋子
利根 弘子
古川 信子
山崎 鈴子
大場比奈子
秋 星

返杯の土佐の文化も消えて春
ブラウスを緑に染めてげんげ畑
余寒にも出掛ける日にはワンピース
七草を言ひ当てる食ぶ一人卓
花並木駆け抜けて来る郵便車
庭荒れて咲き尽したる濃山吹

溝淵 龍泉
東 月
吉川 恵
小松 美鶴
秋山 英身
原 恭子

◆ 美良布俳句会 ◆

これ見よと風の広げる武者幟
薄墨の滲む水引惜しむ春
誰の目にも触れず余花が雨に散る
抜き足で花の絨毯二歩二歩
在りし日の夫と見し余花思ひ出す
新茶摘む一芯三葉唱えつつ
鶏鳴の響く新樹の一の宮

北村 幸子
北村 里子
小野川順子
中内ゆかり
前田 芳子
高田 米子
甲藤 卓雄

◆ かほく俳句会 ◆

みな笑まふ古き写真や春ゆけり
昔日の思ひは深し桑を解く
ひらがなの新入生の文字光る
三椏の花仲良しの三姉妹
春の風邪記憶の母が側にをり
花過ぎの雨竹林を鎮めをり
置石に婆来て座る竹の秋
俳縁の永久にあるべき芽木の里
タンポポの黄色外来種の殖えぬ
墳墓より主の出でませりイースター

乾 真紀子
黒岩千英子
岡本 敏子
小松 昇
杉山 春萌
津田吾燈人
野村 里史
前田 欣一
前田 智
宮崎ただし

今月のキラリ

広報委員会

鶯ときそつて楽し笛を吹く
鶯の鳴き声を聞き、さっそく作者は口笛で「ホーホケキヨ」と鶯の鳴き真似をしてみた。するとそれに応える鶯、また作者も口笛で応える。お互い競い合い、楽しい時間が流れて行く。

鶯は別名、春告鳥とも呼ばれる。春の季節の喜びと楽しさが詠われている。この句の場合『笛を吹く』と詠われているので、『鶯笛』とも解釈出来るが、口笛として鑑賞した。

とりどりの遅速均して芽吹立つ
五在所山の風矢車を昂らす
窓枠の外は本降り柿若葉
月半ば彼岸桜の早散りて

宗石 愛喜
森本 之子
山崎かずみ
山中 明石

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」
〒782-18501（住所記載不要）FAX 53・5958

香美アートアニュアル vol.9

— 不確かな未来へ —

7月7日(水)～8月29日(日)
休館日/毎週月曜日
(祝日の場合は開館し、火曜日が休館)



◀ 黒を突き破れ! / 坂本聖斗

アートの窓

香美市立美術館



平成25年度から当館独自の企画として続けている高知に縁のある若手作家を紹介する企画で、今年は7名の作家の作品を展示します。田中愛子は、鮮やかな色と形で抽象的に空間をとらえた絵画をあらわし、筒井美夏は、土佐和紙の良さを生かして人物画に取り組んでいます。深浦亜希は独自の図形を重ねてできる不思議なイメージを展開し、坂本聖斗は日本画の中で現代的な感覚をあらわしています。はらわたちゆん子は、ネオンサインを使ってレトロな広告を今に甦らせていて、MitsuMaedaは写真の力で様々な世界の今を切り取って見せています。横山千春は絵本の中に入りこんだような幸福感にあふれる絵画を生みだしています。



▲ゆのまちネオン / はらわたちゆん子



▲sparkle / 筒井美夏

このようにそれぞれの作家が独自のやり方で、自分の表現を掘り起こし不安な時代の波を乗り越えていくこととしています。本展を足掛かりとして、彼らが未来に向けて力強く進んでいくことを期待しています。昨年からは新型コロナウイルスの影響で世の中が大きく変化し、皆さんが不安のなかで日々暮らしておられますが、ぜひ次世代のアーティストの力作を見ていただきたいと思えます。
(館長・都築房子)

香美市森林環境税活用事業

申し込みいただいた方からの投稿を募集しています!!

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

理緒くん、一織くん

木それぞれの匂いや手触り、色合いが集まってとても美しい積み木です。下の子がまだ3カ月と小さいので、お兄ちゃんが近くで組み立てて遊んであげています。お兄ちゃんはとても気に入り、ヘリコプターや家など色々なものを作っていました。



※香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからの感想、写真を募集しています。

投稿者の氏名、写真、写真に映っている方の名前(ペンネームで構いません)、感想を、下記メールアドレスまでお送りください。

←場所等はこちらをご覧ください



『ぶらっとホームMoku』のご協力により、南国市十市パークタウン内で木のギフトを手にとってご覧いただけるようになりました。

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。



【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283 ✉rinsei@city.kami.lg.jp